

# 食育は「やってみた」という経験が自信につながりやすい学びです。

その他の特徴として、食育に限らず全ての正課活動、課外活動は当園が選ばせていただいた教育のエキスパートの方々に最高の教育を提供していただいております。

又、私たちのように日常的に子どもたちと関わる人間や講師だけでは客観的に当園の教育を見ることが難しいので、「アドバイザー制度」を設け、定期的にアドバイザーと意見交換を行い、教育の質を高めております。



## 教育という観点から見た食育の取り組みについて

### ミールケアお客様インタビュー

埼玉県川越市 学校法人山口学園 川越ひばり幼稚園様

埼玉県川越市にある学校法人山口学園 川越ひばり幼稚園様は、「子どもたち一人一人の将来を考える幼稚園」を教育方針のもとミールケアの考案師と共に、月に15コマの授業をCooking studio(食育活動)を行うクッキング専用教室)で行っております。今回は、学校法人山口学園園長 福田佳野先生に園の今の様子や、ミールケアの食育を取り入れた理由、今後についてお話を聞かせていただきました。



【司会】ミールケア 食育開発部 考案師 傳田多美 執行役員

#### Q1、川越ひばり幼稚園様の特徴を教えてください

それは「4年教育」です。幼稚園は二条校(※)です。で、小学校との結びつきが非常に強い教育施設です。子どもたちが幼児教育を学ぶ上でも、小学校進学時にスムーズに学校教育に移行できることが大切だと考えております。ただし昨今の小学生は学ぶ項目が以前よりも多く、スムーズ

ズに学校教育に移行する為に幼児教育での下地を今までもより広く持つべきですが、幼稚園にいる3年間でそれらを作るのは子どもたちにとって負担が大きくなるのではないかと懸念しておりました。そこで考えたのが、幼稚園生活を1年早くスタートし、のびのびとした環境の中で余裕を持って学んでいける「4年教育」です。4年間かけて心の余裕を持ち

ながら学んでいくことで、個の考えを尊重しながらも集団生活で大切な基礎を身につけ、友と共に学ぶことを楽しめる子に育てていきます。

※条校：学校教育法第1条に定められている「学校」

※当園の2歳児クラス(「ばさ組」は、年小組(3歳)の前に幼稚園生活を送り、卒園までの4年間をかけて教育を受けられる「4年教育」を行うクラスです。

Q2、園で特に大切にされていることは何ですか？

子どもたちの可能性を広げる教育です。自主性を大切にし、自ら教育や学びに興味関心を持ってもらえる様な教育を目指しています。

「二つの行動において「なぜそれを行うのか」を伝えると共に、子どもたちの「なぜ・なに」を大切にし、自分の考えに自信を持てる子どもを育てております。

#### Q3、Cooking studioで食育の大切さをどのように伝えていきますか？

「勉強は教室、運動は運動場が用意されているのに、なぜ食育は特化した場所や施設が用意されていないのだろう…」

教室や運動場の様に、子どもたちに様々な食に関する体験を提供し、たくましい心と身体を育くみたい。その様な想いから食育が始まりました。「食」は様々な教育の根幹です。クッキングスタジオという特

別な場所での食の専門家であるミールケアの考案師の方から食育を学ぶことで、子どもたちは様々な教育の根幹を学ぶことができます。

食育を学ぶ上で大きなメリットの一つとして、「やってみた」という経験が自信につながりやすい学びだと思えます。なぜならCooking studioで教えていただける食育はどれも「楽しく」そして「美味しい」。学びやそれに伴う行動が「楽しい」「美味しい」と思えることは、誇らしく、自信になります。

子どもたちにとって一番身近な「食」は「家庭での食事」です。子どもたちがお家に帰って、ご家族がご飯を作ってくれる日常。実は、これは当たり前のことではなく、とても幸せで特別なこと。子どもたちがCooking studioという特別な場所です。「食」を学ぶことにより、ご家族が作ってくれる食事はとても特別で温かく想いが詰まったものだと思わせてくれるようになります。

そして、それはご家族に対し

での感謝の気持ちが生み出すことにも繋がります。幼児教育において「感謝」という気持ちはとても大切です。「見ると食のことしか学べないよう」で、食からは様々なことを学べます。

#### Q4、イベントや行事などを教えてください

今年5月に開催した「食育フェスティバル」ひばりマルシェ」というイベントでは、老若男女たくさんの方にお越しいただきました。在園児にはこだわりのランチボックス(ミールケア様)を提供したり、20、30代の卒園児の方が来てくれたり、祖父母の方が子どもたちに手を引かれて来てくださったたり、

山口学園が今後目指す、様々な年齢層の方が集う教育施設を体現できたイベントを開催すること

#### 学校法人山口学園 川越ひばり幼稚園 福田 佳野 園長

profile  
自身も川越ひばり幼稚園を卒園。国立音楽大学を卒業し、表現分野アドバイザーとして子どもたちにリトミックの指導も行う。埼玉県川越市内にある川越ひばり幼稚園・川越第二ひばり幼稚園・川鶴ひばり幼稚園の3園の園長を務める。





初認定 educe食育認定園



日頃より幼児教育に於ける食育活動に取り組む幼稚園や保育園、こども園を対象とした「educe食育認定園」に川越ひばり幼稚園様が初認定されました。

認定基準について

認定基準には食育活動が、毎月計画的に実施されており、栽培保育が積極的に行われていて、農と食のつながりを大切にしていること。安全、衛生管理を十分配慮し保育者の配置体制をとっているなど、食育活動に積極的に取り組む園様へ向けにeduce食育認定園認定書を贈呈しております。

もう一つ挙げるとすれば、ミールケア様は情報(知識)のアップデートが素晴らしいです。成長が著しい幼児期であるからこそ、子どもにとって何が最適なのか一緒に考えてくださる業者様に食育を提供していただきたいと考えていたのも理由のひとつです。

Q7、ミールケアの食育はいいかでしょうか？



食育イベント後、美味しく食べる子どもたち

今後もミールケアは子どもたちと本気で向き合い食育を実践していきます。本日はありがとうございました。

ミールケアの食育



子どもたちの興味関心を引き出す、楽しい食育講座

ミールケアの「食育」はエネルギーギッシュに子どもたちと向き合い専門的な知識を持って楽しく「食育」を学ぶことができます。

ができました。又、規模感を活かした運動会や発表会などのイベントも多々ありますので、一人一人の園児、ご家庭を大事にしながら盛大な催しを今後も行っていきたいと考えております。

Q5、保護者様との良好な関係作りには心がけている事は？

園をよく知っていただくことです。コロナ禍では、中々今まで通りのコミュニケーションをとることが難しくなり、直接ではなく、電話やICTを使ったものが多くなりました。直接教育現場をご覧いただく機会が少なくなったことにより、幼稚園内の状況が分からない、知りたいというご意見をいただくこともありました。そこで大切にしようと考えたのは、園の考えや状況を知っていたり、回数を増やすこと。様々なツールを使用し、お伝えする内容もより濃いものとする。ことを心がけました。

例えば、今までは「月に数回、定期的にスケジュールや行事のご連絡を出す」という仕様が、「休園日以外はほぼ毎日、園の情報をお伝えする」という仕様に変更しました。感染症対策の緩和もあり、今後は直接的なコミュニケーションも増えていくと思います。方法を検討しつつ、子どもや幼児教育に対しての想いをしっかりとお伝えしていくことが保護者様との良好な関係を作ると考えます。保護者の方からは様々なご意見をいただくこともございますが、大切なお子様を園にお預けくださっている、幼稚園の1番の理解者であり支持者です。その方たちに幼稚園のことをより知っていただきたいという想いを大切にしていきたいです。

Q6、ミールケアの食育を取り入れた理由を教えてください

「食」は、子どもたちの「好き、楽しい」という思いや、自信

を見つけてあげられる最高のピースの一つです。そんな「食」に関して、ただ行うだけでなく、専門的な知識を持って子どもたちに楽しく「食育」を伝えてくださる会社を探しておりました。そんな中、当園の「お泊まり保育」で「パン作り」を提供してくださるミールケア様とご縁を持つことができました。当時、園に特別な施設があったわけではないのですが、これだけ子どもたちの食のために真摯にエネルギーギッシュに取り組んでくださる会社様は他にないと思いつき、ミールケア様とご一緒にお仕事させていただきました。そこから数年、2017年にクッキングスタジオを備えたSORAを建てることになり、改めて給食だけでなく食を通して子どもたちに「食育」を提供していただきたいと考え、オファーいたしましたところ、快諾していただき今に至ります。

川越ひばり担当の考食師からひとこと

私たちは「輝く未来に繋がる食育」を実践していきます

〈食育開発部 考食師 武藤 久美子〉



川越ひばり幼稚園では、2歳から5歳までの園児に正課活動として毎月各1回ずつ、1か月に約15コマの食育を実施しています。

ミールケアの食育は「子どもと会話をする」「子どもから素直に言葉を引き出す」食育です。例えばキノコの食育では、舞茸を子どもたちに触らせたり香りを確認させながら「このキノコにはどんな色が隠れていますか?」と問いかけをします。すると子どもたちは目の前の舞茸を見て、真剣に知っている色を探し始めます。様々な角度からの観察が始まり、白、茶色、木の色、熊の色、色の濃淡など、終わりの

のない回答が続きます。言葉が溢れ出し、自分の意見を言いたい、聞いて!そんな活気ある食育を毎回目指しています。また、子どもたちが体験して学ぶだけではなく、私自身子どもたちに新しい気づきをもたせています。舞茸の形は蝶々、ラッパリボンに付いたレース、くるくる回った時のスカートなど、感じたままの素直な言葉が飛び交います。「スカートがひらひら舞っているような形だから舞茸って名前なのかもしれないね。」と私が話をする、子どもたちから「おー」と感心の声が上がります、私が3歳児から引き出してもらったことでもあります。

会話による食育 「素直な言葉」を引き出す。きのこの食育① この「きのこ」にはどんな色がかくれていますか? 白色、茶色、木の色、熊の色。ここは濃い色(指をさして)。たくさんの言葉、答えが出てきた! これこそが、求めていたeduce!

私たちが考える食育は、「educe」引き出す「食育」です。子どもたちの考え、言葉、能力、関心、やる気、嬉しさ、生きる力。たくさん子どもたちから発せられたものを、否定せずに受け止め次に繋げていくことを大切にしています。私の声掛け1つ1つが子どもたちの未来に繋がると信じ、健やかな心の成長の糧となるように願い、今後も胸を張ってミールケアの食育を続けていきます。